

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22年 7月 1日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103742		
法人名	有限会社 平野		
事業所名	グループホーム ファミリーホーム		
所在地	〒731-3361 広島市安佐北区あさひが丘1-1-10 (電話) (082) 838-4165		
自己評価作成日	平成22年4月28日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksjks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3470103742&SCD=320
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成22年7月8日(木)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当施設では、地域における介護サービスの質の確保に努め包括区域内に連絡会を設置し、周囲のGHと共に研修会を開催したり、情報交換やコミュニケーションを図っている。特に運営推進会議に参加し、各施設の情報公開や、避難訓練や感染症の対策の実演を家族に公開したり、また、入居者同士も交流を持てるよう合同での行事開催に努めている。並行して広島市GH事業者交流会に参加し市内のGHの情報を収集したり、広島県GH事業者連絡会及び全日本GH協会広島県支部活動へ参加し地域内に反映させている。他年に2度京都より歯科衛生士の先生に口腔ケア指導を受け食支援を展開している。施設カンファレンスとし、月に一度、医療、看護、衛生士、介護の側面からケア指針を決定している。本年度については精神科領域の研修を展開予定。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

1. 職員全員は、一人ひとりが「地域の職員であり、地域全体の高齢者への支援」に取り組むことへの想いを共有・共感しながら地域密着型サービス事業所の社会的役割の実現化に取り組んでおり、こうしたことから地域・近隣の方々の理解と支援が深まっている。

2. 地域包括支援センター及び地域にある他3グループホームと、例えば年に1度地域にある全グループホームの利用者と家族が集まり、毎年風船バレー大会を開催したり、職員研修会の実施、お互いの運営推進会議への参加、忘年会の合同開催などを行いながら、積極的に交流や連携を図り各事業所相互の質の向上に努めている。

3. 利用者1人ひとりの思いや要望、変化等をきめ細かく把握し、事例検討は毎朝職員全員で話し合っケアに対する意見の統一を図っている。また、1人ひとりの日常生活の中での役割の他、親としての役割、人生の先輩としての役割を担っていただくなどにも取り組まれている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念 「地域に密着したアットホームな介護を提供します」 当施設では家庭的な雰囲気を大切に介護サービスへ反映させ実践へ結びつくよう取り組んでいる。	職員全員が事業所の理念を理解し、日々利用者に関わる際に、理念を具体化していくことを意識して支援に取り組んでいる。また、代表者、職員は、地域密着型サービス事業所の社会的役割を認識して、理念のもとで地域に溶け込む事業所作りを目指して実践に心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	運営推進会議や地域行事への参加を積極的に行い、外出先でのスペースの確保や、安全配慮への協力を地域から受けれており、一体となり楽しめる生活の確保へ向け、様々な子問を展開している。	地域で開催されている、カラオケ大会や敬老会、小学校の運動会等多くの行事への招待を受けており、その際には、利用者に配慮してトイレに近い席を設けていただいている。また、地域との防災協定も近日中に結ばれる予定となっており、良好な関係づくりが築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	主には運営推進会議による情報の公開時にあわせて認知症高齢者の理解を訴えている。また、地域行事を通じてその支援について周知を促している。その他、地域包括支援センターと協力し、制度公開のための相談窓口として活動できるよう整えている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には他のGHの管理者及び職員に参加していただき、当該施設のサービスについてシビアに評価いただき、ご利用について質の確保された施設であるための情報収集に努めている。また、行事のマル秘スポットの情報や失敗例を公開することによる介護上の配慮についても公開している。本年度は家族への避難訓練や感染対策の公開を検討している。	運営推進会議には、家族代表、自治会の役員、市及び地域包括支援センターの職員、地域他グループホームの職員等が参加して開催されており、多くの率直な意見、要望、質問等を受け、これらを1つ1つ積み上げながらサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	当事業所の運営推進会議への参加の依頼や、安佐町連絡会（包括区域内のGHの連絡会）への参加などを呼びかけ事業所の実態の公開につなげており、指導・助言を受け行政指針や法的根拠を基に更なる展開ができる体制の確保に努めている。	常日頃から、事業所の現状を伝える機会を意識して作り、また事業所だけに限らず地域ぐるみの課題にも連携を図りながら取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の具体例の周知はしていない。特に行為を取り上げて禁止的な判断をもち、逆にやっても許される拘束の原理を理解することが虐待の始まりである旨を伝え、当該施設においては、全面的にこの理念を生かしている。ともに暮らすことに対し、拘束しなければならぬほどの状態を継続しているにもかかわらず、対処が遅れてしまっているのでは施設の質に問題があるのではないかと考え取り組んでいる。	利用者が引き起こす症状の原因をひもとき、一人ひとりの利用者が抱えている根本的な不安や混乱等の原因を取り除くケアに取り組みながら、身体拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束の防止マニュアルを作成しており、施設理念に準じた形にて周知徹底を促し、精神科領域についての研修も実施している。また、精神科病院の見学も検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	過去に青年後見人制度を展開したことがあり、そのときの情報は随時使用・閲覧できるようにしている。また、行政に当時の経過を記したものを情報として提供しており、質問ができるようになっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、施設の料金だけではなく、その権利や付随するサービスの情報を提供している。また、近隣のGHや特別養護老人ホームの情報も指標として提供する。指針の中で特に看取りケアについては十分に説明し、ご高齢であること。特異・突発性があること。既往歴の周知をご家族にはお願いしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	主に運営推進会議にて2ヶ月に1度意見を伺う機会を設けている。また、面会時には担当の職員ほか出勤者全員で声をかけ家族の反応や様子をうかがい、訴えたいことがないか慎重に捕らえていけるよう努めている。	利用者が自身の思いや意見を上手く表すことができない場合でも、一人ひとりの言動や、表情などから嫌がること、好むことなどをとらえ、利用者主体の運営に結びつけている。また、家族等の意見や要望等については事業所から積極的に聴く努力を行いながら、速やかな対応がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>年に2度、職員のレクリエーションを行いやすい環境を整備し意見を聞き入れている。ただし、すべての意見ではなく現状の運営に照らし合わせながら改善可能なものから着手している。また、収集した情報に関しては管理者以外には漏洩しないよう配慮している。</p>	<p>常日頃から、利用者との日常的な関わりの中で生まれる職員の気づきやアイデアを、運営に取り入れている。職員が意見を言いやすくする等、工夫がされており、働く意欲の向上にもつながっている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>働きやすい環境の整備に努めている。例えばコミュニケーションを円滑に行えるよう各管理者は職員のその日の調子を随時観察・配慮し適宜声をかけながら向上心を持って介護に取り組めるモチベーションの維持に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員間のコミュニケーションを円滑にするための工夫は前記同様実施し、たのしい職場作りを展開することで仕事（介護）をたのしいと感じていただくことによる能力の向上を図るとともに、外部研修者の研修発表や安佐町連絡会への参加にて情報を提供する。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>安佐町連絡会や広島市GH事業者交流会（西区、佐伯区、安佐北区、安佐南区、南区、中区、東区、大竹市、福山市、安芸高田市にて構成）を展開している。また、年に1度安芸区の事業者交流会とも合同で意見交換会を展開している。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>個別にゆっくりとした時間の中で、ニーズや、生活暦などを聞き出せるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時より1年ほどは管理者を中心にコミュニケーションが取れるよう配慮している。その後は、少しずつ構築されていく職員との信頼関係にて要望がくみ上げられるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	生活暦や既往歴によりできること、できないことの判断を早期に見つけられるよう努めている。また、介護職員の過剰介護を制限し施設内における介護指針についても周知できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	アットホームという語句に注目し、家族のような信頼し合える関係作りに努めている。一人の人であることに注目し、喜怒哀楽を共にすることが生活であることを認識し介護サービス（支援）を提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の精神的負担を金銭面、介護面ともに配慮し軽減に努めている。精神的負担の軽減による笑う時間の確保が、「変わらぬ関係」の維持につながっていると考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご入居者の友人や生活圏をできる限り把握し、触れる時間の確保に努めている。	これまで本人を支えてくれている関係だけではなく、本人が支えてきた関係を把握し、できるだけ接点をもちながら関係を継続させるための支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご入居者の皆様の関係が劣悪にならぬよう配慮しているが、一定の喧嘩やトラブルは意思があるから発生することであり、常に中がよいのが、かえっておかしいと考えている。大切なのはその後どうフォローするかでは？と職員とともに取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後も来所いただけるよう声をかけている。また、困ったことがあればいつでも連絡ができるよう家族へアプローチし、転居先の施設などとも連絡を取り合っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	マネジメントに対し、希望の聴取は認知症の程度により一部困難になっている。また、精神疾患患者の場合にはこれに限らないことがある。例えばご本人のニーズにより精神の高揚がもたらす生活リズムの崩壊によるADLの低下など。	日々の関わりの中で言葉や表情などから意向を推測し、本人の言葉か、職員の推測かをきちんと分けて記録しているので、客観的な分析ができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴の聴取に関しては原則家族から行う。ただし、当事業所では生活保護世帯が大半を占めており行政に提供を求めることもある。介護保険の他のサービスの利用歴があればケアプランやサマリーの提供を求めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録を原則2時間に一回以上の記入とし生活リズムの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画はCMを中心に作成するが、事例検討会議を随時設け、プランへの反映を現場の介護者より提供された情報を基に実施している。</p>	<p>日常的に希望や意見を聞き、本人と家族の話している内容を再確認しながら、計画に反映している。介護計画の内容は、利用者の視点にたって必要な支援を盛り込んだ個別の具体的なものとなっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>上記会議録にて、短期評価（3日～14日）にて実施し、プランの評価へつなげている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>介護の視点を職員だけに絞らず、医師、看護師、療法士との月1回の合同カンファレンスにより多様化している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域行事への参加等による生活の目標や楽しみがもてることできるよう支援し、地域の皆様より声をかけていただけるよう職員が発信者となってかかわりを構築している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医への受診へは外出支援を含め実施している。医院の往復時景色に四季を感じたり、家路ではおやつやジュースを公園に立ち寄りこっそり食べてみたりと楽しみをおいている。また、医療面は基幹病院への紹介を適宜行えるようDrより配慮いただいている。</p>	<p>本人や家族の希望するかかりつけ医で受診できるように、対応している。かかりつけ医、家族、事業所との受診結果に関する情報の共有もできている。また、かかりつけ医への受診と外出支援を結びつけて、気晴らしへの配慮がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	1 W/1 回以上の頻度で看護師とかかわりを持っている。また、特変時は訪問看護特別指示書等により医療体制の確保ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の特視機関（最長1 W程度）以外はGHに帰所し継続した加療が提供できるようにしている。また、病院での治療は精神的に安定せず問題行動が増幅し出現するためなるべく短期間で退院できる体制を確保している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	初期発見段階からICを実施し、終末期ケアを展開している。ICに関しては、介護面、医療面の双方から実施し、余後の充実に努めている。	終末期ケアの指針もあり、体制が出来ていることを、利用開始時に伝え、希望があれば対応されている。面会の少ない家族には、利用者の現状が良く分かるように情報提供を工夫しながら、行っている。また、職員全員で方針を共有し、チームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時は管理者へ迅速に報告できるようマニュアルを作成し実践により能力を徐々に習得している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	現在は口頭にての協力体制だが、本年度中に協定書を作成できるよう取り組んでいる。	年に2回、利用者と職員がともに避難訓練を行っている。地域との防災協定の締結や、家族の協力を得て避難訓練を計画するなど、災害対策への意識は高い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声かけには、生活歴より現在の認知症状を踏まえ一番なじむものを使用している。それが敬語を脱したものであっても、ご家族に相談の上、ご理解を頂きプランとして反映させている。	家族に取組みへの思いを説明し、納得を得て利用開始前に家庭や職場等での愛称名等と言葉かけや対応を行っている。敬語とならないケースもあるようだが、必ず誇りは損なわない言葉かけになる様注意されており、利用者の方々も安心感や親しみを感じられていることが伺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	オープンクエッションを用い意思が表現できるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務的な時間配分は使わずのんびり暮らしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類等の洗濯は現在はほとんどのご入居者様では難しい事も出てきている。時には化粧をできる機会も作り、意識向上へつなげている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	楽しんで食事ができるよう、みんなでメニューを決定している。準備、片付けはADL的に現在は困難に近い。	利用者の方の体調や状態等から、職員とともに食材の買出しや一緒に調理することが難しくなっており、まな板の音や、香りなどの視聴覚で食事を楽しめるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分については日計表を出し、摂食については月計表により変動を確認している。また、季節的な問題も考慮し設定をDrとともに変動させながら経過を見ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを展開している。また、1W/2回は歯科衛生士、看護師による口腔内のチェックも実施している。年に2度京都から歯科衛生士の先生に訪問していただき実技指導と講義をいただいている。主には咀嚼・嚥下や、周辺の筋力の状態を維持できる検討会を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄介助は定期的ではなく、ご入居者の皆様のペースを確立し、自尊心が保護できるよう配慮しつつ、「できる」排泄を促している。	利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを把握し、個別の排泄支援を行い、また排泄機能を低下させないように現状を維持するようにも取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	主には、水分と投薬による管理が多く医療と相談の上経過を診ている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に毎日の入浴ができるが、現在は3日に一回程度がほとんどである。時間帯は日勤帯のみとしている。	利用者の習慣や希望に合わせて、柔軟な入浴支援を行っている。全身が見える脱衣所の大きな鏡の前で、利用者の方が自発的に身だしなみを整えたり、髪の毛の乱れを気にされたりすることにより、自分を意識するように工夫されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>日常の生活リズムが乱れないように配慮している。刺激やメリハリをなくすのではなく、夕刻の精神状態のクールダウンを実施し安定した睡眠を提供している。ただし、不眠時は無理やり就寝を促さず友に過ごす。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>服薬に関しては職員管理としている。薬効に関しては、薬剤師を中心とした研修会を行いながら周知を促している。病状変化は採血にて経過を見ている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>できることを見つけ個々の能力が維持できるよう努めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>玄関周辺までは自由に出入りできる。</p>	<p>職員全員が話し合っ、かかりつけ医への受診診断後にドライブなどを楽しむことにより、利用者が少しでも戸外で気分転換を図り、気持ちよく過ごせるように取り組んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>現在施設では金銭の所持は実施しておらず、買い物同行の際にのみ支払いをされている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	希望があれば電話は使用できるよう配慮している。		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	穏やかな空間作りに取り組んでおり、園芸品も取り入れながら生活していただいている。	共用空間は自然の光や風通しに配慮がされている。四季が楽しめる大きな窓際には、ソファが置かれ、独りになりたい時や職員と話をする時などに利用されている。リビングにはスナップ写真や季節の花が飾られ、季節感を大切にされた居心地良い空間となっている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	広いスペースを確保しており思いの場所で過ごせるよう配慮している。		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	家具の持ち込みはできるだけ家族にお願いをしている。しかし、消防の指導において避難経路の確保の観点から幾らかは整理させていただいている。	居室はそれぞれが工夫されており、本当に自分の家という意識が伺えた。居室には、馴染みのものを持ち込み、また、家族の写真や、自分の思い出の写真などが貼ってあり、安心出来る環境づくりとなっている。	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	構造的な配慮として「できることの確保」に対応している。例えば「トイレに間に合った。」など。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。		①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように</p> <p>②数日に1回程度</p> <p>③たまに</p> <p>④ほとんどない</p>
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<p>①大いに増えている</p> <p>②少しずつ増えている</p> <p>③あまり増えていない</p> <p>④全くいない</p>
66	職員は、生き活きと働けている	<p>①ほぼ全ての職員が</p> <p>②職員の3分の2くらいが</p> <p>③職員の3分の1くらいが</p> <p>④ほとんどいない</p>
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が</p> <p>②利用者の3分の2くらいが</p> <p>③利用者の3分の1くらいが</p> <p>④ほとんどいない</p>
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が</p> <p>②家族等の3分の2くらいが</p> <p>③家族等の3分の1くらいが</p> <p>④ほとんどできていない</p>

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 GH ファミリーホーム

作成日 平成 22年8月13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域における防災協定の終結。	本年度中の終結。	連合自治会の三役会にて検討を進めている。また、事業所は会議にてその必要性を提示する。	半年。
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。